



## 2024 年度 JRA 畜産振興事業 次世代の養蜂人材育成のための研修事業 事業報告書（概要版）

養蜂はハチミツ等蜂製品の提供のほか、花粉媒介を通じてわが国農業に貢献する重要な産業です。近年、SDGs の観点などから養蜂が注目を集める一方で、しかし、担い手不足や不十分な産業基盤といった課題があります。

2024 年度、公益社団法人国際農林業協働協会（JAICAF）は、JRA（日本中央競馬会）から助成を受け、養蜂の意義・役割に加え、養蜂産業の課題や課題解決のアプローチを学ぶ高校生向けの研修事業を実施しました。

---

表紙写真：（株）堀養蜂園での養蜂家研修の様子

本事業で目指すのは、養蜂を生業とする養蜂家だけでなく、養蜂産業を支える関連分野で産業振興を視野に入れながら活躍する人材を育成することです。この目的の下、座学や養蜂家訪問を通じて養蜂の意義や養蜂業の実際を学ぶ国内研修と、モンゴルでの海外研修（各校から代表者が参加）を組み合わせ、より広い視点から養蜂産業について学び、考えるプログラムとしました。

研修参加校は、応募校の審査を経て下記の14校に決定しました。

### 事業スケジュール

	全般	国内研修			海外研修 (モンゴル)
4月	下旬 参加受付開始				下旬 参加受付開始
5月	<b>5月24日(金)</b> 参加申込み切				<b>5月24日(金)</b> 参加申込み切
6月		事業解題(6/15午後) 専門家講義 (6/15・7/6午後) *東京近郊開催・オンライン併用		学習テーマ設定 校内学習(自学) 定期ミーティング	<b>6月3日(月)</b> 参加者決定・通知
7月			養蜂家訪問(随時)		研修参加準備 (参加者各自) オリエンテーション(7/20午後)
8月					8/10前泊 8/11-8/20ツアー 8/21報告会
9月					
10月					
11月	イベント等での発表				
12月					
1月					
2月					
3月		成果発表会 事業終了・報告書発行			

### 研修参加校一覧

\*50音順

1	愛知県立安城農林高等学校(愛知県)	8	聖心女子学院中等科高等科(東京都)
2	大妻嵐山高等学校(埼玉県)	9	広島県立世羅高等学校(広島県)
3	角川ドワンゴ学園N高等学校(東京都)	10	多治見西高等学校(岐阜県)
4	ぐんま国際アカデミー中高等部(群馬県)	11	筑波大学附属坂戸高等学校(埼玉県)
5	市立札幌大通高等学校(北海道)	12	日本工業大学駒場高等学校(東京都)
6	静岡雙葉高等学校(静岡県)	13	安田学園中学校高等学校(東京都)
7	聖学院高等学校(東京都)	14	北海道留辺蘂高等学校(北海道)

# 1. 国内研修

国内学習では、専門家による座学と養蜂家訪問、自主学習による情報収集、定期ミーティングでの情報共有を通じて学習を進めました。

このうち養蜂家訪問では、学校近くの養蜂家・養蜂企業を訪問し、日本の養蜂産業について、あるいは、養蜂業を行う上での課題や楽しみ、ミツバチを飼育する上での技術や法制度などを伺いました。蜂場や巣箱等の製作工房から、ハチミツの充填施設、店舗、花粉交配にミツバチを利用するイチゴ農家のハウスまで、養蜂産業を支える様々な現場を見学させていただきました。

定期ミーティングでは、各校の学習状況の共有や養蜂家訪問の結果報告、養蜂産業の未来を考えるディスカッションを行い、学校を超えて学びを共有しました。

## 座学

開催日	テーマ	場所
6月15日 (土)	<b>事業解題</b> 西山 亜希代 (JAICAF 業務グループ) <b>農林水産省からの情報提供</b> 信戸 一利 氏 (農林水産省畜産振興課課長補佐) 第1回講座 <ul style="list-style-type: none"> <li>● <b>ミツバチの生態と飼育方法</b>                              講師：干場 英弘 氏 ( (一社) 養蜂産業振興会理事 / 元玉川大学農学研究科教授)</li> <li>● <b>日本の養蜂、世界の養蜂</b>                              講師：中村 純 氏 (耕作放棄地お花畑化プロジェクト推進協議会代表 / 玉川大学名誉教授)</li> </ul>	聖心女子学院 * オンライン併用
7月6日 (土)	第2回講座 <ul style="list-style-type: none"> <li>● <b>ミツバチと養蜂資源植物</b>                              講師：佐々木 正己 氏 ( (一社) 養蜂産業振興会代表理事 / 玉川大学名誉教授)</li> <li>● <b>農業と送粉サービス</b>                              講師：前田 太郎 氏 (国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構 農業環境研究部門上級研究員)</li> </ul>	安田学園 * オンライン併用

## 養蜂家訪問

	訪問日	養蜂場 (場所)	参加校数
1	7月27日 (土)	みつばちファーム (東京都あきる野市)	1校
2	7月29日 (月)	(有) 山田養蜂場 (茨城県つくば市)	1校
3	8月1日 (木)	熊谷養蜂 (株) (埼玉県深谷市)	7校
4	9月12日 (木)	松本養蜂総本場 (福島県会津若松市)	1校
5	9月17日 (日)	みつばち農園 (静岡県藤枝市)	1校
6	9月29日 (日)	たかだ養蜂 (埼玉県秩父市)	2校
7	10月14日 (月・祝)	小林養蜂園 (群馬県沼田市)	4校
8	10月19日 (土)	(株) びーはいぶ (愛知県西尾市)	1校
9	10月20日 (日)	(株) ビーハイブジャパン (東京都目黒区)	4校
10	10月27日 (日)	(有) 間室養蜂場 (埼玉県比企郡)	3校
11	11月3日 (日)	(株) 菅野養蜂場 (北海道常呂郡)	2校
12	11月7日 (木)	(株) 堀養蜂園 (岐阜県瑞浪市)	1校
13	11月11日 (月)	(株) Beemonte (広島県三次市)	1校



左：座学の様子。最初は緊張気味だった生徒たちも、回を重ねるごとに打ち解けた雰囲気。

上：第2回定期ミーティングにて、養蜂家訪問研修の報告の様子。

下：養蜂家訪問研修の様子。蜂場から巣箱等の工房、充填施設、店舗まで、産業を支える現場を見せていただいた。



## 2. 海外研修

海外研修はモンゴルで実施しました。

モンゴルでは厳しい自然・社会環境の下、養蜂は小さな産業ながら、食料の安定供給や環境保全はもちろん、生活格差や地下資源への経済依存といった社会課題の解決に陰ながら貢献しています。地方での持続的産業として注目を集め、養蜂家が増加してハチミツ生産量が急増する一方、生産性の低さや不安定なハチミツ供給、病害虫の蔓延などに苦しんでいます。養蜂家の課題を解決す

るため、モンゴル政府は養蜂産業振興政策を打ち出し、養蜂産業を支える制度の構築や人材の育成に取り組み始めています。

研修に参加する代表者は、応募者から、研修推進委員による選考を経て 13 校の 17 名に決定。10 日間にわたるモンゴルでの経験を持ち帰り、日本との比較学習を行うことで、日本の養蜂の課題や今後のあり方を考える一助としました。

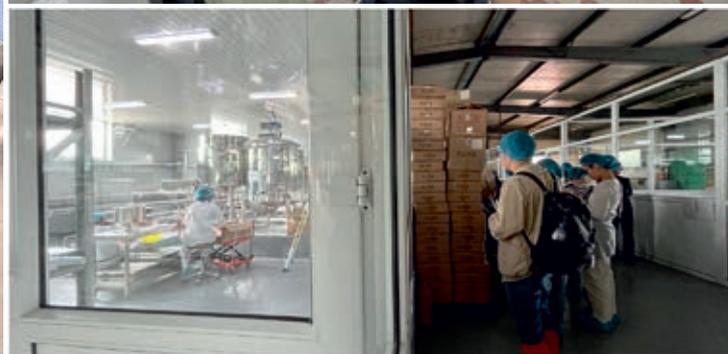
日本帰国後はそのまま成田近郊で 1 泊し、翌日、海外研修に参加しなかった生徒を含め、各校の参加者や関係者に向けて帰国報告会を実施しました。

### 研修訪問地



### 海外研修日程

開催日	プログラム	場所
7月20日(土)	オリエンテーション • モンゴル社会とモンゴル養蜂事情 (JAICAF) • モンゴル旅行について (旅行代理店) • モンゴル研修の持ち物や準備 (JAICAF)	JICA 市ヶ谷 * オンライン併用
8月10日(土)～ 8月20日(火)	モンゴル研修 • 参加者顔合わせ・部屋割り・注意事項確認 (8/10) • 関係機関 (ウランバートル) : 獣医薬研究所・中央獣医衛生ラボ・JICA・モンゴル農業大学 (8/12-8/13) • 養蜂現場 (セレンゲ県・ダルハンオール県・ボルガン県) : 養蜂場・ハチミツメーカー・農科大学養蜂専科 (8/15-8/18) • 研修とりまとめ (ウランバートル) (8/19)	成田近郊 (前泊) モンゴル
8月21日(水)	帰国報告会 • 行程報告 (8組に分かれて発表) • グループ発表 1 : 養蜂産業の意義と課題 • グループ発表 2 : ハチミツ • グループ発表 3 : 病害虫 (ミツバチヘギイタダニ) 防除 • グループ発表 4 : ミツバチの蜜源と花粉源 • 講評	成田近郊 (後泊) * オンライン併用



上/左上：モンゴル北部の養蜂エリア、ダルハンオール県の蜂場で現場研修  
 左下：養蜂コースを持つボルガン県の農科大学にて  
 右上：中央獣医衛生ラボを訪問  
 右中：ハチミツメーカーの工場見学  
 右下：研修参加者による帰国報告会

# 「次世代の養蜂人材育成のための研修事業」事業報告書

## 目次（予定）

### 1. 事業概要

---

### 2. 国内研修

---

- 1) 座学
- 2) 養蜂家訪問研修
- 3) 定期ミーティング

### 3. 海外研修

---

### 4. 研修成果

---

- 1) 各校の海外研修報告
- 2) 各校の年間活動報告

### 5. 添付資料

---

- 1) 海外研修帰国報告会 発表資料
- 2) 養蜂家訪問 発表資料
- 3) 広報・メディア掲載実績

※報告書は2025年3月に当協会のウェブサイトにて全文を掲載するとともに、関係各所に印刷物をお届けします。希望者にお配りすることも可能ですので、ご希望の方は下記までご連絡ください。

#### 報告書に関するお問い合わせ

公益社団法人 国際農林業協働協会(JAICAF)

担当:業務グループ 西山/森

〒107-0052 東京都港区赤坂 8-10-39 赤坂 KSA ビル 3F

TEL 03-5772-7880 / FAX 03-5772-7680

<https://www.jaicaf.or.jp>